

事業所名	グループホーム友愛 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 3月29日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員 B:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
歴史と文化が交差する町、倉敷市中心部の住宅地にあり、近くにはスーパーやコンビニ、郵便局・学校等があり、生活に便利な環境である。
家族や身寄りのない入居者も多く、可能な限り家庭的な環境の中で穏やかに安心して暮らせるよう支援している。
職員は、入居者の孫や子供のように接し、入居者を全面的に支えていく姿勢で取り組んでいる。
ホームは既存の住宅を改修しており、ハード面での事情も家族には十分了解してもらい、不自由な面も上手く活用している。要介護度が進んだ場合でも、同法人の老人保健施設への受け入れが可能であり、また、医療面での協力体制も整い、緊急時の夜間対応も可能で、入居者・家族は安心が得られる。
開設以来、地域に溶け込んで交流したいとの思いから、入居者と職員はほぼ毎日散歩や買物に出掛け、交流がもてるよう努力している。その甲斐もあり、運営推進会議を開いて地域との意見交流の場を設けている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
現在、定期的な職員介護は開かれていない。ぜひ、月に一度は定期的な職場内会議を開き、さらなる情報の共有化を図っていただきたい。また、申し送り事項においても、日常的な介護の様子や連絡事項について記録に残すなど、記録類の見直しをされ、さらなる充実を望む。
ヒヤリハット記録を残し、事故防止に繋げて予測の介護に努めてほしい。
個人ファイルや個人記録等は、個人情報保護の観点から鍵のかかる場所などプライバシーが守られる配慮を望む。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>半数以上の入居者が家族や身寄りがない方のため、温かい家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるホーム作りを目指している。</p> <p>職員は娘や孫になったつもりで、お客様扱いではなく、共に暮らす家族の一員として接している。</p> <p>既存の住宅を改修しており、ハード面の不自由さをより良く活かして身体機能の維持に努めるなど、プラスに持っていく工夫をしている。</p> <p>認知症であっても普通の暮らしを送っているグループホームの生活を理解してもらえよう、地域住民の中に溶け込む努力を続けている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>椅子や机の置き方に変化をつけ、人から少し離れて安心して過ごせるセミパブリックスペースを作る等、入居者の気持ちに合わせた工夫をしている。</p> <p>入居者と一緒で作成した季節感あふれる花を壁に貼り、季節の移り変わりが十分に味わえるよう、四季に合わせた場所作りを心がけている。</p> <p>花の植え替え、水遣り等家事を職員と一緒にを行い、自分が必要とされている充実感を感じて生活してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>散歩・買物など、ちょっとしたことで外の空気に触れることで気分転換を図るようにしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>トイレと浴室とが向かい合っていて狭くなっているため、入浴中などはカーテンで仕切る等、プライバシー保護への配慮を心がけている。</p> <p>面会簿は設けず、行事記録の中に面会の記録を盛り込んでいる。</p> <p>一人ひとりのできる・できないを見極めた役割りづくりを行い、活き活きと生活できるよう支援している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>毎月4～5回、ホーム内研修を実施し、サービスの質の向上に向けて努力している。</p> <p>段差の解消・手すりの取り付け等、ハード面での課題点の一つずつクリアーにして入居者の安全を守っている。今後は、リビングの床全体を改修してバリアフリーにすることを計画している。</p> <p>自主評価には職員全員で取り組んでおり、全ての項目を振り返る事で自己反省の良い機会となっている。</p>		